

## もくじ

- ・ ゆきのじょう

# ゆきのじょう

げんさく： アンデルセンどうわ

イラスト： アカミツキ

へんしゅう： イエローバードプロジェクト

つめたい かげが ふき、そらに ゆきが  
まいはじめました。

このくにでは ふぶきの ひは、  
『ゆきのじょう』が こどもたちを つれさりに、  
やまから おりてきているのだと  
いわれていました。

なので、けっして こどもたちだけで、  
そとに でては いけないのです。

そのひ、とある おとこのこと おんなのこが、  
へやで あそんでいました。

おとこのこの なまえは『カイ』。  
おんなのこの なまえは『ゲルダ』です。  
ふたりは おさななじみで、  
いつも いっしょに あそんでいました。

ゆきがやみ、かげが おさまってきたので、  
ふたりは そとに あそびに 出かけました。  
ゆきやまを そりで すべっているとき、  
きゆうに カイが そりをとめました。

「どうしたの、カイ？」

「わからない。いま、だれかに

よばれた きがしたんだ。おんなのひとの  
こえだったような・・きのせいか」



それからまた そりを はしらせましたが、  
カイの ひょうじょうは、  
ずっと くもったままでした。

そのよくじつ、とつぜん、  
カイが すがたを けしてしまいました。  
まちのみんなは ひっしに カイを  
さがしましたが、どこをさがしても、  
カイは みつかりませんでした。  
そのうちに カイは、こおりの はった かわに  
おちたのだとか、クマに  
たべられてしまったのではないかの うわさが  
ながれてきましたが、ゲルダは、きっと カイが  
ぶじでいると しんじていました。

すうじつご、まちのみんなが ねしずまったころ、  
ゲルダは ひとりで まちを めけだしました。

ゲルダは カイをさがして、  
なんにちも あるきつづけました。

